



高遠 慎悟(たかとう しんご)さん

1973年生まれ。父親が大工だったことから建築関係の仕事を目指し、設計事務所、建築会社勤務を経て、2013年、設計士として独立。黒姫駅前のフリースペース「モトホンヤ」オーナー兼管理人として、同スペース内にてトライトー級建築士事務所経営。第1回「シナノフェス」実行委員長。



大澤 保博(おおさわ やすひろ)さん

1976年生まれ。看板屋を経て、長野市内の車の板金塗装屋で17年間勤務。地元・信濃町で高いレベルの板金塗装業を展開し、子どもたちの近くで働きたい思いから、2013年独立。高遠さんとは地区の消防団も一緒に、同時期に独立開業した仲間。第2回「シナノフェス」実行委員長。



佐藤 可奈(さとう かな)さん

1978年生まれ。信濃町唯一のジャズバー「ブーズシェルター」のマスターと結婚し、絵が得意だったことから店の手描きポップなども手がける。「シナノフェス」の実行委員として、第1回・2回ともにTシャツ等のイラストやデザインを担当。

特技のイラストを生かして佐藤さんがデザインを手がけたTシャツ。当日は同デザインのグッズも販売され、好評を博しました。



広々とした自然を楽しめる黒姫童話館。



天候にも恵まれ、イベント終盤のライブでは観客も立ち上がってみんなで踊り出すほど大盛り上がり!



出ない人間からすると、野外イベントはものすごく新鮮で気持ちがいい。そういういい景色や空気の中で音楽を聴いたりおいしいものを食べたり、みんなでヨガをやったりと、すごく素敵なイベントだと思います。

高遠 たとえ僕らが実行委員をやっていないと、こういう面白いイベントがあれば行っていたよね。結局、自分が行きたいイベントを作っているんです。

大澤 それに、信濃町は狭い町なので、みんな友だちみたいなノリは好きですね。

高遠 もともと、思いつきで始めたイベントだけど、こういう

人のつながりは田舎ならではの、ちょっと思い立った時に「行ってみよう」と思える場所が多い生活は豊かだと感じています。自然があって、行きたい場所が気分を選べ、水がおいしくて空気がうまいのなら、決して都会に劣らない。ただ、「シナノフェス」でまちづくりをしようとは一切考えていないよね。もし、結果的に「シナノフェス」が人を呼びこむことになるとしても、町の人たちが町をいと思わないと、結局、人は来ないと思う。その上で「シナノフェス」は数年でやめることが一番よくないと思っているの、10年は継続したいですね。1年目はやるだけで精一杯だったけど、2年目はもう少しわかってきたので、今後は音響面でもクオリティを上げつつ、とにかく続けていきたいです。



SHINANOMACHI SPECIAL INTERVIEW

町民の手でつくろ「シナノフェス」の魅力とこれからのこと。

「自然に恵まれた信濃町をさらに楽しくしよう!」と町内の有志が集まって2016年の夏に野尻湖畔で始まった「シナノフェス」。音楽や飲食屋台、ヨガなどが楽しめるイベントとして好評を博し、2017年には黒姫童話館に場所を変えて開催されました。そんな「シナノフェス」が始まった経緯や、信濃町への思いをキーパーソン3人に聞きました。

「シナノフェス」はこうして始まった

高遠 最初は、付き合いがある町内の電気屋さんが、昔、セミプロのバンドとして活躍していたと聞き、そんなにすごい人が身近にいるなんて知らなくて、身近な野尻湖もなかなか行かないけどいい季節に行くと気持ちがいいから、そのふたつをくっつけたイベントをやりたいと話していたんです。そこで、キーポイントになったのが、20年前から信濃町でジャズバー「ブーズシェルター」をやっているマスターさんです。ずっと音楽をやっているマスターさんが助言してくれて、そのおかげで音楽的なふくらみが出て方向性も定まりましたね。

大澤 それで会議をして「シナノフェス」という名前も決まって。

高遠 野尻湖に限らず、信濃町のいいところを発見できたら面白いという思いを込めて付けました。それに、個人的には次世代のことを考えると、この町を出て行くことを考えると、この町を出て行くとしても「あの町は楽しかったな」という記憶をもって行ってほしいとか、「雪が多い」とか文句ばっかり言って過ごすよりも動いてみたら

どうかというメッセージを込めていたんですね。

佐藤 私は普段、少人数で仕事をしているから、みんなで何かを作っていくのが楽しかったですね。大人になってそういうことってないから、達成感がありました。

大澤 それで、1年目は予想以上の800人くらいが来てくれて。2年目は景色がいい場所でもやりたいと思っただけで黒姫童話館前の広場にしたいんですけど、行きづらい場所でもあるので集客は不安でした。でも町内の方が多く来てくれて、広い場所なので数時間、芝生の上で子連れで遊ぶ人が多くてよかったですね。

「シナノフェス」と信濃町の魅力

大澤 「シナノフェス」は飲食屋台もいっぱいあるので、音楽や自然、食事など自由に楽しんでほしいですね。それに、2年目は黒姫童話館自体の収益も前年よりアップしたそうなので嬉しかったです。そういう町の資源も一緒にいい方向に向かえたらいいな。

佐藤 信濃町はやっぱり自然が多くて、私みたいに普段あまり外に